

使命感でなんでもやらせるな!

女性社員の使命感とは?

はなぜ退職の道を選ぶのか?
運転士になりたくない女性社員

「旬刊ACCESS」第84号によると、JR東海ユニオンの定期大会で、車掌から運転士への運用に女性組合員が難色を示している現状について、本部側は答弁したという。

「JRで働く女性の使命感が問われている。女性の深夜帯勤務も定着してきた。まずその場に身を投じてほしい」と。

確かに、労働基準法上は女性の深夜勤務は可能とされているし、実際JRの職場でも多くの女性社員が様々な職種で深夜勤務をこなしている。

しかし、そもそも、「女性が深夜勤務に就くこと」は望ましいことなのだろうか。「改正」前の労基法では、女性の労働は条件面で、保護=制限をかけられていた。女性は一部職種を除き、深夜勤務をしなくても良かったのである。労働者の立場で言えば、けして「女性の深夜勤務が解禁」されたのではなく「女性の労働条件が改悪」されたのである。

「JRで働く女性の使命」とは、その場に身を投じてみて、「女性の深夜勤務の縮小・撤回」のために声を上げることだと良いのだが……